

岡山大学病院は4月19日、厚生労働省の臨床研究中核病院整備事業の対象機関に選定された。本事業は日本発の革新的な医薬品や医療機器の創出などを目的に、国際水準の臨床研究や難病等の医師主導治療、市販後臨床研究等の中心的役割を担う「臨床研究中核病院」の整備を目的としており、岡山大学病院を含め、国内10機関が選定されている。

岡山大学病院は、今後5年間厚生労働省の補助金を受け、「臨床研究中核病院」として小児・稀少疾患難病等疾患別ネットワークを形成。医師主導治療でなければ実施困難な研究支援や国際水準（ICH-GCP水準）の臨床研究において中心的役割を担う。具体的には、中・四国地方における基幹病院とのネットワーク（中央西日本臨床研究コンソーシアム）を活用し、2000床以上の病院83施設（33,000ベッド以上）で大規模な臨床研究や治験を迅速に実施。薬事開発の規制当局との高度な連携や、薬事承認を目的とした研究を行う人材の育成、日本発の医薬品や医療機器の早期実用、日本国内での医療産業化の加速が求められる。そのため、岡山大学病院は①日本最大

岡山大学病院が「臨床研究中核病院」に決定

厚生労働省の臨床研究中核病院整備事業



臨床研究中核病院に選定された岡山大学病院

級の臨床研究コンソーシアムの基盤強化（メガホスピタル化）、②臨床研究支援人材の育成拠点整備、③臨床研究を国際水準で実施する体制整備、④産業化の促進・社会への還元という4つの課題を設け、社会に貢献できる体制を整備していく。

- 課題
- ① 日本最大級の臨床研究コンソーシアムの基盤強化（メガホスピタル化）
 - ② 臨床研究支援人材の育成拠点整備
 - ③ 臨床研究を国際水準で実施する体制整備
 - ④ 産業化の促進・社会への還元
- アクションプラン
- ① 運営事務局の機能強化
 - ② マルチPI型ネットワークによる活性化
 - ③ ARO機能による研究シーズの探索
 - ④ 人事評価制度の構築
 - ⑤ 横断的人材育成
 - ⑥ レギュラトリーサイエンスコースの開設
 - ⑦ 薬事承認を目指す医師・支援者育成
 - ⑧ 薬事承認申請に向けた体制整備
 - ⑨ データマネージメントシステム充実化
 - ⑩ コンソーシアム内の審査体制の整備
 - ⑪ 医師によるモニタリング体制の充実化
 - ⑫ 企業連携担当、薬事戦略担当の配置
 - ⑬ AROとしてリスクマネジメントプランへ積極的参加と協力



持ち込まれたロシア落下隕石▲

ロシア落下隕石の分析開始！

地球物質科学研究センター

隕石の分類とともに地球に落下するまでの出来事（イベント）が複数記録されていることが分かっていた。各出来事の年代測定や状態の解析などさらに詳細な解析が進められている。同センターは、小惑星探査機「はやぶさ」が持ち帰った小惑星イトカワの微粒子の分析実績がある。今回も最先端の分析装置を結集した「地球惑星物質総合解析システム（CASTEM）」を使用し、新たな発見が生まれることに期待がかかる。

岡山大学地球物質科学研究センター（鳥取県東伯郡三朝町）の中村栄三教授らの研究グループは3月18日、ロシア南部チェリャビンスク州に2月15日に落下した隕石の分析を開始すると発表した。

同センターに持ち込まれた隕石は直径0.5〜3センチの計19個。同センターのロシア人研究員を通じてロシアのウラル大学とソレフ地質鉱物学研究所に働きかけ、共同研究を行うことが決まった。

同センターでの解析は既に始まっており、電子線やエックス線、イオンビーム、レーザー等を用いて隕石の組織や鉱物の組成を、また質量分析計を使い酸素同位体組成を調査した結果、



▼最先端分析装置を使った分析風景



「猿駒曳」「牛」国内最古の絵馬出土

鹿田遺跡で奈良時代(8世紀後半)井戸跡から出土



▲出土した牛の絵馬（上）と復元図（下）

▲出土した猿駒曳の絵馬（上）と復元図（下）

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターは5月23日、鹿田遺跡で奈良時代末（8世紀後半）の井戸から、猿が馬をひく「猿駒曳」と「牛」が描かれた国内最古の絵馬が出土したと発表した。猿駒曳の絵馬は23cm×12cmの長方形。馬は左向きに頭から尻尾まで体のラインがなめらかに描かれ、くらやあぶみなどが装着されている。馬の手綱をひく猿は背中が丸く、小さな姿で描かれている。古くから猿は馬を守る動物と考えられており、猿駒曳を描いた現存最古の例は13

世紀末の戯画だった。絵馬の出土は国内初で、今回の発見で猿と馬の関係が奈良時代までさかのぼる可能性がでてきた。牛の絵馬は21.5cm×12.3cmの長方形。ひづめなど細部にわたる体の特徴や飾り帯が描かれている。牛の絵馬は国内でほかに3点ほどあるが、その中で最古。絵馬は古くから現在に至るまで神社などに奉納され、平安時代の絵巻にも登場するが、今回出土した絵馬から奈良時代の人々の願いや信仰、習俗について研究を深めることが期待される。



岡山大学病院に総合診療棟が完成

手術件数年間1万件を目指す



▲完成した総合診療棟

岡山大学病院で診療の中核となる新たな総合診療棟が完成し、5月7日から運用を開始した。総合診療棟は中央診療棟と入院棟の間に新営され、鉄骨鉄筋コンクリート5階建てで延べ約1万平方メートル。1階にがんや心臓・血管などの病気を画像に抽出し、病変を確認しながら治療を行うMRIセンター、3、4階に血管造影装置を併設するハイブリッド手術室1室と高度先進医療を担う最新設備を備えた

手術室を計20室配置。岡山大学病院の平成23年度手術件数は8,642件で、既に国立大学病院の中でも全国5位とトップクラス。総合診療棟の完成を機に年間1万件の達成を目指す。竣工記念式典には文部科学省大臣官房文教施設企画部の長坂潤一技術参事官や県内外の医療関係者ら約100人が出席。森田潔学長が「日本で最高の医療を提供したい」とあいさつし、横野博史病院長が「岡山大学病院の理念を具体化し、高度で安全・安心な医療を提供していく」と力を込めた。臓器移植や小児心臓外科、ロボット手術などの高度先進医療の推進、遺伝子細胞治療などの先端治療の開発において全国で最も進んだ施設である岡山大学病院は、これからも高度で安全・安心な医療を提供していく。



▲ハイブリッド手術室